

新分野製品の開発

インテリア関連製品の開発

佐藤 彰

産地製品及び企業の多様化に資することを目的として、新たな異分野製品の開発をデザイン面から行った。本年度は、デザイン開発及び試作作業を行った。

1. はじめに

市場環境や生活様式の変化などにより、国内製陶磁器の市場が縮小傾向にあるなか、当該産地製品も売上減少が続いている。食器市場は成熟分野であり、また、人口が減少に転じるなど、今後、更に厳しい市場環境が懸念される。

このような状況に対し、産地製品の市場規模の維持・拡大を図るためには、製品及び企業の多様化が重要な方向性の一つと考えられる。

そこで、本研究テーマでは、食器以外の新たな分野の製品開発をデザイン面から試行するものである。

研究開発初年度である平成 18 年度は、インテリア関連の市場環境や動向の情報収集を行い、開発品目を選定し、デザイン開発及び磁器部材の試作等を行った。本平成 19 年度は、デザイン開発及び磁器部材の修正と試作、その他資材に関わる調査・試作等を行った。

2. デザイン開発

2.1 目的

具体的な先行デザイン開発・試作を行うことよって、生産過程での課題を抽出し、解決ノウハウの蓄積を図ることを目的とする。このことにより、新規開発に伴う業界のリスク、コスト、期間、設備などの問題を軽減することに資するものである。

2.2 考え方

デザイン開発にあたり、以下の要素を踏まえたものとしている。

背景からの要素

- ・ 近年、都市部を中心に住宅開発の高まり、また、

継続的なリフォーム市場の推移がみられるなど、住関連の需用が基本的に推察されること。

- ・ インテリアプロダクトなど居室関連の市場は、一定規模の市場性があり、近年関心が高まっていること。
- ・ 食器商品も家具やインテリア関連製品と同様、生活用品の一部として横断的に商品構成を行う新たな小売形態が伸長するなど、以前と比較して陶磁器業界との接点は拡大していること。

産地からの要素

- ・ 産地の現状から、基本的に既存の食器製造工程への適応を前提とした品目であること。
- ・ 産地製品は高価格帯となることから、生活必需品ではない新たな価値観や付加価値を訴求するものとする。
- ・ 新規製品分野であることを活かし、製品開発、デザイン、ブランド構築などにおいて、伝統的背景を持つ食器分野とは異なる自由度の高い選択を行うことができること。

これらのことから検討を行い、本デザイン開発における製品分野はインテリアプロダクトとし、トレイを具体的な品目として選定している。

2.3 デザイン開発

前年度後半には、デザイン開発作業に着手したが、焼成による形状の変形、また、寸法の変化などの問題が発生した。このため、本年度は、形状、原型モデリング、材料の面から修正作業を引き続き行った。

さらに、コスト、加工技術の面に配慮した新たなデザイン開発も行った。

2.4 試作

デザインした形状等について、上述の修正に基づき試作作業を行った。

形状デザインは、デザイン用3次元モデリングソフト Rhinoceros を用いてデザイン及びモデリングを行い、石膏型として出力した。



図 1.2 試作品



図 2.3 試作品

3. まとめ

研究テーマ初年度である前年度の製品開発における調査と考察、デザイン開発及び試作作業に引き続き、今年度は、デザイン開発及び試作修正作業及び新たなアイテムについてもデザイン開発及び試作作業等を行った。

次年度は、和品への展開要素を含め、最終試作を作製し具体的に提案を行う。

参考資料

- 1) 矢野経済研究所, 家具・インテリア小売市場の展望と戦略, (2005)